

福 議 委 号
令 和 8 年 9 月 日

福島町議会議長 溝部 幸基 様

経済福祉常任委員会
委員長 佐藤 孝男

所管事務調査報告書の提出について

令和 8 年 6 月 18 日福島町議会定例会 6 月会議において決定した、休会中の所管事務調査を終えたので、会議条例第 148 条の規定により、下記のとおり報告する。

記

調 査 事 件	2 アワビ陸上養殖事業の進捗状況について		
調 査 期 間	令和 8 年 8 月 2 4 日		
出 席 委 員	委 員 長 佐藤 孝男 委 員 平沼 昌平 委 員 溝部 幸基	副委員長 小鹿 昭義 委 員 平野 隆雄	
委員外議員	議 員 藤山 大隆 議 員 木村 隆	議 員 杉村 志朗 議 員 熊野 茂夫	
出席説明員	町 長 鳴海 清春 産業課長 福原 貴之 産業課水産係長 尾崎 司宙	副 町 長 小鹿 一彦 産業課長補佐 中村 伸也	
議会事務局職員	事務局長 鍋谷 浩行 主 任 角谷 里紗	係 長 山下 貴義	

[委員会意見]

調査事件 2 アワビ陸上養殖事業の進捗状況について（令和 8 年 8 月 24 日調査）

町が進めるアワビ陸上養殖事業は、スタートして10年目を迎えますが、ここ数年は種苗購入先での病気の発生や自然災害などによりアワビ種苗の安定的な受給ができない状況から、販売サイズの在庫不足が続き販売額が低減し、アワビ陸上養殖事業の収支は改善されず厳しい状況にあります。

町では、課題となっている陸上アワビの生産性の向上と事業の効率化を図るため、令和7年度より北日本水産㈱のノウハウを最大限活用した大量生産の可能性等について調査しており、この度、養殖事業の進捗状況と今後の方向性について資料が示されたことから、その内容を調査したので、調査結果を報告する。

【論点とした調査項目・意見】

町から示された「アワビ陸上養殖事業の進捗状況について」は一定の理解をしたが、次の事項について検討されたい。

1 新たな陸上養殖体制の構築について

これまでの生産方式における課題を解決するため、実績のある北日本水産㈱に調査委託し、その結果を基に現行の方式を全面的に改めるとした町の考えは理解するが、町独自の多段方式も含めて福島町の陸上養殖アワビとして広く認知されていることと、北大水産学部による試験飼育が継続されていることを考慮し、一部既存の生産方式を残す必要があると思慮する。

前回の調査でも指摘しているが、現行の生産方式を全面的に見直すのであれば、アワビ陸上養殖事業に最初から関与し事業の推進に尽力して頂いた水産アドバイザー等関係者に配慮し、これまでの経緯と今後の取り組みについて十分説明し、理解を得る必要があると思慮するので早急に対応するよう改めて指摘する。

資料では、試験飼育において、既存の多段式に比較しプール式(かけ流し)が高い成長結果を示しており、人件費や餌料費等生産コストの抑制が可能とされており、来年度から水槽の入替えなど事業を進めることから、今年度中に事業内容を精査して議会に報告されたい。

2 今後の方向性について

資料で示された生産方式の変更や施設運営の連携等、今後の方向性についての、北日本水産㈱との協議にあたっては、これまで町が進めてきた陸上養殖アワビに対する思い、町民の期待や関連企業とのつながりなど、町として配慮すべき点に十分留意し進められ、良い結果につながるよう期待する。